



衣川 良介

## 『おたふくの面』

もう10年近く前のことです。姫路商工会議所で開催された産学交流会の研究・意見発表の時、当時、姫路工業大学工学部の岩崎教授が面白い発表をされていました。『まるでプラスチック製のようにですか？』おそろおそろ質問した私に『衣川さん、面を触ってみてください。』教授。『指で叩くとポコポコ、あれ！アルミですか？』

こんな会話から非常に良く伸びる特殊なアルミの話を受けて頂きました。このお面は、アルミニウムの板を膨らませておたふくを作りました。ちょうどお餅を焼くように空気の力で膨らませるのです。言ってみれば焼き餅成形法です。専門的には超塑性成形法（ちょうそせい せいけいほう）と言います。

特徴は材料を熱して軟らかくするので、こみいった複雑な形が作れること、小さい力で成型できるので型の材料が選び易く型が作りやすいこと、大掛かりな機械を必要としないこと、などです。しかし、良いことばかりではありません。良く膨らむアルミニウムの板を作るには特別な作り方が必要で高価な板になります。また、焼き餅成形はゆっくりと時間をかけることが必要ですから大量生産には向きません。ですから飛行機の機体を作るのに使われます。最近では百倍も速く成形できるアルミの板が作られつつあり、自動車のボディに使われるようになりました。説明を聞いたあと、このお面が欲しいとおねだりをしました。それから長い時間が経ち、姫路工業大学は現在、兵庫県立大学として2004年から総合大学になっています。また、私がおねだりをした岩崎 源先生も定年退官されました。先日、先生にお会いした時、『おたふくの面』近々送るよ！少し説明も必要でしょう。大型連休明けの2011年5月6日、待望のお面が手元に届き、写真を撮りました。

ちなみに、「おたふくのような顔立ちは、福を呼ぶ好ましい顔立ちとされていたが、美意識の変化から不細工な女性を罵（ののしる）言葉としても用いられるようになった。」と、ものの本に記載されていました。

『鉄のふしぎ博物館』に展示しています。ぜひ、古代の美人と対面してください。

お面のデータ

板の大きさ 290 mm x 260 mm 厚み 1 mm 重さ 205 g

お面寸法 290 mm x 160 mm x 65 mm

「鉄のふしぎ博物館」開館  
来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかわりますよ。  
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>  
ryou@memenet.or.jp  
bike@kanamonoya.co.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！